

## NEWS RELEASE

2019年8月20日

日本豆乳協会

SOY1910

### 日本豆乳協会

**2019年4-6月期の豆乳類の生産量が104,417kℓ、  
前年同期比111.2%を達成**

**～豆乳（無調整）や調製豆乳を中心に、さらに市場は拡大し  
四半期で初の10万kℓ超えに～**

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：重山 俊彦 キッコーマンソイフーズ株式会社 取締役会長、事務局長：川村良弘、以下豆乳協会）では、2019年4-6月期における豆乳市場の動向について、分析しました。その結果、全体で104,417kℓ、前年同期比111.2(%)を達成しました。

豆乳協会では、定期的に「豆乳等生産量等調査\*」を実施し、豆乳（類）市場の動向を確認しています。4-6月期における国内の豆乳生産量を種類別にみると、豆乳類の中で最も生産量が多い調製豆乳の生産量は53,012kℓ、前年同期比108.2(%)でした。また、近年拡大傾向にある「豆乳（無調整）」の生産量は26,203kℓ（107.6%）で、前年同期を上回り、大きく成長しました。また、「豆乳飲料」は、果汁入りが4,490kℓ（103.6%）、紅茶やコーヒーに代表されるフレーバー系のその他豆乳飲料は、16,035kℓ（99.0%）という結果になりました。「その他」のカテゴリーでは、豆乳クリームをはじめ、豆乳ヨーグルトや豆乳鍋などの原材料である豆乳が4,677kℓとなりました。

この4-6月期においては、ほとんどの種類において、前年同期比を上回っています。引き続き、豆乳（無調整）や調製豆乳が伸びている要因は、健康志向の高まりから、飲用としてはもちろん、豆乳協会が提案している料理に使用する豆乳の需要が伸び、さらには、これまで「ライトユーザー」だった層が「リピーター層」に変わり、日常的な利用者が拡大していることが挙げられます。なお、豆乳飲料については、昨年の同時期に、「チョコミント味」や「バニラアイス」風味等の製品を凍らせてアイスとして食べるトレンドができたことから急激に生産量が増加したこともあり、今期については、昨年とほぼ同様の生産量になりました。

豆乳協会では、2020年には、国民一人あたりの豆乳（類）年間飲用消費量を4ℓに増加させ（2016年2.5ℓ / 総人口12,700万人）、年間総生産量を50万kℓにすることを目標に、豆乳に対する人々の理解や関心を高めるため、年間を通じて様々な啓発活動を展開しています。

なお、豆乳協会では、7月17日、4-6月期の速報値を発表しましたが、今回は、改めて、確定数値及び各カテゴリー別の生産量をお知らせします。

（参考）

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓発活動を行っています。昭和54年9月1日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓発活動を展開しています。毎年10月12日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

(株)VA インターナショナル  
田中/平井

TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017